

		第一選択	第二選択
医学的区分	抗インフルエンザ薬	オセルタミビル(内服:タミフル)	ラニナビル(吸入:イナビル)
		院外のみ:ザナミビル(吸入:リレンザ)	

※1参考ガイドライン:「日本感染症学会2019年、2022年提言」「日本小児科学会2022/2023シーズンのインフルエンザ治療・予防指針」

条件付き選択薬

ペラミビル(注射:ラピアクタ)

【注意】

- ※本フォーミュラリーはインフルエンザ感染症の治療に対するものであり予防適応を推奨するものではない
- ※インフルエンザ感染症の予防の基本はワクチン接種であることも留意する。
- ※アマンタジン、ファビピラビル(アビガン錠)は評価対象外
- ※各薬剤により投薬期間、回数が異なるが短い薬ほど外出・出席停止等が早まる、という意味ではない

【詳細】

◎第一選択薬について

- ★オセルタミビル(内服):①エビデンスが多く小児科学会でも広く推奨されている②ジェネリックがある。③異常行動に関する警告が削除された。
- ★院外のみ・ザナミビル(吸入):①耐性の報告がほとんどなくオセルタミビルと異なる投与経路のため嚥下状態を診て使い分けが可能。②外国での承認が多い

◎第二選択薬について

- ★ラニナビル(吸入):①日本以外で販売が無い②ジェネリックがない③海外第Ⅱ相試験でプラセボと比して有意な有効性が得られていない

◎条件付き選択薬について

- ☆ペラミビル(注射):①ADL、嚥下状態を診て使い分け②「内服及び吸入が不可能で静脈内投与が必要と判断される患者」をターゲット

抗インフルエンザ薬 桜ヶ丘院内フォーミュラー (ノイラミニダーゼ阻害剤)

成分名	オセルタミビル	ザナミビル(院外)	ラニナビル	ペラミビル
採用剤形 商品名	カプセル 「サワイ」後発品	吸入(DP) リレンザ	吸入(DP) イナビル	点滴静注(バック) ラピアクタ
薬価(円/錠)	費用対効果に優れる 11.4円/Cap	127.7円/BL	2,179.5円/本	6,331円/本
投薬終了までにかかる費用	114.0円	1,277円	4,359円	6,331円
用法用量(成人)	1日2回 5日間	1日2回 5日間	単回	単回 連日反復投与可
海外承認状況	米国・英国承認 全世界で使用され最もエビ デンスがある薬剤と言われる	米国・英国承認	海外承認なし プラセボとの有意差がな かった報告	米国承認
適応症比較	A/B インフルエンザウイルス感 染症・予防投薬(自費・適応外)	A/B インフルエンザウイルス 感染症・予防投薬(自費・適応外)	A/B インフルエンザウイルス 感染症・予防投薬(自費・適応外)	A/B インフルエンザウイルス 感染症・予防投薬(自費・適応外)
備考	異常行動のリスクを高めるとい われていたがインフルエンザ自体 によることが明確になり項目は削 除された。	症状緩和までの時間が短い。 特にB型に効果が高い。 吸入のため重症例、肺炎、喘 息合併例では使用しづらい	確実な吸入で1回の吸入で 治療できる利点 吸入のため重症例、肺炎、喘 息合併例では使用しづらい	

成人(妊婦・授乳婦含む)抗インフルエンザ使用フローチャート

